



NO.17

Daisuke Miyahara

宮原 大輔 | 監督

鰐組卒業を控えた2人に、
岸本が聞きたいことを聞きました。

鮫組の社員からは「宮っち!」と呼ばれている宮原大輔。几帳面で仕事熱心、かとおもいきや人懐っこくお話し好き。

そんな宮原は今抱えている現場を最後に、鮫組を去ることになった。どうして鮫組に入ったの? 鮫組を去る心境は? 代表の岸本が話を聞いてみました。

—岸本: 宮っちはなんで鮫組に入ろうと思ったの?

宮原:僕は鮫組の事務所の近くに住んでいて、偶然鮫組に出会いました。夜に近所を歩いていたら、ぼんやりと明かりに照らされた印象的な古民家があったんです。木造軸組模型がライトアップされていて、設計事務所かな?と思いました。気になって鮫組のブログを読み始めたある日、ブログに求人情報が載っているのを見つけたんです。

—そうそう! 初めて社員を募集したんですよ。

私は前職でゼネコンの現場の施工図を描いていたんですが、ずっと現場に興味があったんです。施工図を描くという立場上、比較的現場に近いところで働いてはいたんですが、実際に作っている人やその先のことを知りたいと思っていました。鮫組のブログでは、木を選ぶ様子や、現場の写真が数多く上がっていて、とても魅力的に感じていました。たまたまその時自分が着工から竣工まで関わっていた仕事が一段落したタイミングだったので、鮫組に入ってみようと思いました。



—入社して最初の仕事はどんな感じでしたか?

当時岸本さんの右腕として働いていた大工、船橋さんという人と組み、初めての仕事につきました。船橋さんが現場に出て、現場の意見を聞き、宮原が施工図を書き直す。前職と仕事の仕方は似ているけれど、組織がコンパクトで意思疎通がシンプルなのがとても印象的でした。船橋さんと僕は全く違うタイプで、感覚で正解を見つける船橋さんと確認しないと気がすまない僕とは、面白いコンビで動けていたんじゃないかなと思います。

—仕事上の失敗談とか、何かありますか?

資材の大量発注ですね。数量の拾い方や納入のタイミングがわからず、現場に物がなくて作業がストップするのが怖いという漠然とした不安から、とりあえず大量に発注しました。そしたら現場が断熱材だらけで身動きがとれなくなりまして、大工さんからこっぴどく怒られました。大は小を兼ねないんだなと思いました。



—そうなんですよね、現場では「ちょうど良い」じゃないと怒られるんですよね。では、自分がいちばん成長できたなと思えた現場はどこですか?

目黒の集合住宅ですね。監督としてレビュー戦で、資材の大量発注をしてしまったのもこの現場でした。施工難易度も高く、プレカットで対応できない部材がかなり多くありました。当時私は監督として、設計者の設計意図など、何から何まで現場と共有しようとしていたんです。でも現場で職人さんに怒られる。後で分かったことなんですが、現場の職人は必ずしも全ての情報を共有したいわけではないんです。「結局ここ何ミリで決定なの?!」という、現場は現実的なことを知りたいだけなんです。そこに気がついたことで監督として成長出来たのかなと思います。

—なるほど、では、楽しかった仕事は何かありますか?

どの現場にも楽しさはあったのですが、それが多かったのは「桜×鮫」シリーズですね。難易度が高い設計事務所の要望の高い物件が続いた後に、シンプルに作ろうというコンセプトの家だったので、自分としても落ち込んでいる仕事を進めることができました。

—宮っちはよく仕事終わりになんてんcafeで飲んでいたけれど、なんてんcafeや鮫組のスタッフとの関係はどうでしたか?

鮫組は私が入った時は色々な人が出入りする“カオス”だったので、スタッフ同士意見がぶつかることもあります。みんな育ってきた組織が違うし、鮫組のルールも無くて…。そんな時なんてんcafeでビールを頼んで、社員同士で良く飲んでいました。おかげで最近は、お互いの考え方方がわかってきたので、意見の摩擦も少くなりました。なんてんcafeで飲んでいたら、近くのお客様と仲良くなることも出来ました。お客様のホームパーティにお呼ばれしたこともあります。ついで飲み過ぎるので、稼いだお金を全てビールにかえてし

もうなんてことが無いように気をつけました(笑)。

—確かに、私もつい飲んでしまうなあ(笑)。ところで宮っちは3月に鮫組を去ることになっているのですが、この先のことを少し教えてくれませんか?

正直にいうと、明確な夢や目標があるわけではないんです。ただ、30歳を前に、自分の人生に区切りを着けておきたいということがあります。実はプライベートでも変化があり、近々結婚することになったんです。そういう意味でも、一区切つける良いタイミングかなと思いました。その後のことは私はロシアが好きなのでロシアと建築で何か出来ないかな?とか、弟が飲食やりたいと言っているから、弟と一緒にやるか?とか。なんだかワクワクしています。



—なるほど! それはめでたい変化ですね!

そんな風に柔軟に考えることが出来るようになったのも、監督という仕事を通じて、職人、お客様、色々な人に会えたからだと思います。これから何をと言われたら正直「悩んでいます」としかこたえようがないのですが…。監督経験を通じて、今は“まとめる”こと“すめる”こと”が好きだから、きっとそういうことをしていくのだと思います。

—なるほど。会社としてはとても残念ですが、今回宮っちと話をしてみて、こちらもワクワクしてきました。会社は離れますか、きっと今の宮っちなら色々なことを自分で切り開いて行けるんだろうなと思います。本当に、一番変化の大きい時代の鮫組を支えてくれてありがとうございました。





小さな会社なのに広報担当者がいる。鮫組の特徴の一つです。小さな会社の広報担当として、鮫組の良い所をどんどん世の中に発信してくれた「真理子さん」。そんな彼女にインタビューをしてみました。

— 岸本：真理子さんは元々なんてんcafeの常連だったんですよね。

真理子：そうなんです。大学を卒業して最初に住んだ町が要町で、なんてんcafeが出来た当時から通っていました。空間も、歴代の店主もとても魅力的な方で…。前職を辞めて転職を考えていた際に2代目の店主から「うちで働きなよ」と声をかけていただきました。

— 真理子さんはお客様だったころに、A4のルーズリーフにビッシリと、なんてんcafeへのラブレターを書いて置いていってくれたんですよね。その手紙が非常に印象的だったのを覚えています。

変なやつですよね(笑)。でも、広告という仕事柄なのか「伝えたいことは言わないと伝わらない」という気持が大きくて。私、実は話をすることが苦手なので、紙にイラストとも文字をたくさん書いたのを覚えています。

— 真理子さんには入社してから広報だけではなく、なんてんcafeの3代目の店長をお願いしました。

リニューアルオープンを控えているのに、新しい店長が見つからなかったんですね。お店に愛情のない人に仕事を任せるとなるべくなら、多少忙しくても私がなんてんcafeの面倒を見たいと思って、私から店長も兼任しますと申し出ました。

— なんてんcafeもそうですが、鮫組に入って色々な仕事をした中で印象に残っていることは何ですか？

鮫組の企業ロゴを刷新し、ブランド整理をしたのは感無量でした。広告制作会社に勤めている時から憧れていた「DRAFT」さんにお仕事を依頼できたこと、正直この経験がただで結構満足です(笑)。それから広報誌「鮫日和」の発行も。最初はプロの編集マンにお願いしていたのですが、予算の関係で2年目の後期からは編集長もライターも兼任することになりました。編集、設置店探し、配達手配、ほとんどひとりで行います。大変な反面、デザイナー・フォトグラファー・設置店・取材先と濃い人間関係が出来ておもしろかったです。

— 広報、カフェ店長、色々な仕事を兼任していましたが、仕事へのやり辛さを感じることはありましたか？

私は勝手に自分の職種を“リペロ”だと思っています。イタリア語で「自由な」の意。サッカーでは、ポジションにとらわれず行動範囲の広い、攻撃的な守備プレーヤーのことを指す言葉です。そういう風に捉えると自然に「あ、この取りこぼしは私の仕事だ。」と思えるようになって、内容の違う仕事でも特にやり辛さを感じることはませんでした。小さい会社ですし、専門職がいるわけではないので、お歳暮の手配や年賀状の手配、ちょっとしたものづくり、掃除、建築現場の掃除の手伝い。なんでもやる人がひとりいれば、現場のスタッフが働きやすくなるんだろうなと思います。



— 真理子さんは結婚して、来年の3月には正社員ではなくなるという道を選びました。鮫組も“女性の働き方”“女性の雇用”については考えて行きたいと思っているのでお伺いしたいのですが、これからキャリアをどう考えてお聞かせてもらってもいいですか？

私の結婚相手は転勤のある人なので、今までの「東京ベースでの人生の考え方」を見直す必要がありました。それに結婚すると「子ども」という話題も出てきます。私は仕事も絶対持っていたいのですが、環境も体も変わった時に今と同じようなモチベーションが保てるのか不安になっ

イントビュー 鮫組卒業を控えた2人に、岸本が聞きたいことを聞きました。
インタビュー インタビュアー：岸本 耕



たんです。では、そういう変化を楽しめる働き方ってできないのかな？って。それで、まずは正社員という立場にとらわれることをやめてみようと思いました。

— フリーランスで働くということでしょうか。

そういうかっこいいのですが(笑)。でもフリーランスの“リペロ”なんて職種はないので需要はないでしょうね。編集や執筆、デザイン等に特化した技術があれば良かったのですが、私は専門性もなく生きてきてしまったのでこれから勉強しなければならないことも出てくると思います。

— 真理子さんはなんてんcafeの店長をしている間に、地域のお母さんたちとの交流も生まれましたよね。その中に何かヒントがあったのでしょうか？

はい。なんてんcafeで自分たちの専門性を活かして教室を開きたいというお母さんたち、子育てをしながら自分で自分の仕事を作っていきたいと考えるお母さんたちとたくさん出会いました。正直、それまでは自分の人生と子どもの関係をポジティブに想像出来ていなかったのですが、考え方方が少しづつ変わってきました。



— 真理子さんは今、要町のママフェス(仮)の企画を出してきていますよね。その企画もやはりなんてんcafeでの出会いから生まれたんですか？

そうなんです。実は入社 당시に岸本さんが会社としてやりたいと思っていたことの中で唯一できていないことがあるんです。地域の駆け込み寺のような存在、まちづくりをしたい！ということなのですが…。ああ、これは心残りだなと思っていた時に、地域のお母さんたちが「真理子さん、お母さんのためのお祭りをやってくれませんか？」と話を持ってきてくださいました。これ、まさに岸本さんの言っていた地域の駆け込み寺じゃないかと。

— まさにそうですね。鮫組として、建築をする人間として、地域にどう貢献していくのかずっと考えていたので、ぜひ要町全体を盛り上げるムーブメントにしたいですね！でも、こんなふうに色々考えて動く人の後任者が見つかるか心配ですね。

大丈夫ですよ。なんてんcafeって絶対何か持っていますから！ここパワースポットってみんな言うくらい、不思議と良い人ととの出会いを生む場所ですから。

U
T
V
E
M



求人情報

募集職種 ①

監督

鯨組では“監督”と呼んでいますが、住宅の設計から施工までを一貫して見ることができる人を探しています。設計は設計しかない、現場監督は現場管理しかしない、というのではなく、その境目を越えて「家づくりを最初から引き渡しまで面倒を見る」という職種です。

応募資格 年齢は20歳以上で、住宅か店舗の現場監督として働いた経験のある方。
または設計業務に携わっていたが、施工の現場も見たいという方。

勤務日時 月曜日～土曜日 定時 8:00-17:00 日曜・祝日休み(GW・お盆・正月に長期休暇あり)

給与 日給月給制

各種手当 交通費手当あり(1ヶ月往復20,000円以内)・健康保険・厚生年金・雇用保険・労災保険完備

募集職種 ②

広報

鯨組の広報担当者として取材対応等に応じて頂くことはもちろん、地域行事への参加やイベントの企画実施なども業務の中に含まれます。また日々のHPの更新も広報担当者の仕事です。

応募資格 年齢は20歳以上で、企業の広報担当としての勤務経験のある方。
または、企画や編集を仕事にされていた方。

勤務日時 月曜日～土曜日 定時 8:00-17:00 日曜・祝日休み(GW・お盆・正月に長期休暇あり)

給与 日給月給制

各種手当 交通費手当あり(1ヶ月往復20,000円以内)・健康保険・厚生年金・雇用保険・労災保険完備

面接を希望される方は採用担当の岸本までご連絡ください。▶ 電話: 03-5986-1081 メール: office@yoshikawano-namazu.com

イベント情報

今年の餅つきは12月28日(日)です!



鯨組では毎年末、お世話になったお客様や地域の皆様へ、1年間の感謝を込めて「餅つき」を行っています。12:00からは地域の方に向けて振る舞い餅を行ないます。お餅の他にも暖かい豚汁などもご用意いたします。参加ご希望の方は、広報馬把宛にお電話またはメールにてご連絡ください。

日時 12月28日(日) 12:00-15:00

費用 無料

ご注意 餅つきは外で行ないますので、暖かい格好でお越しください。
またお餅の販売はしておりませんので、ご了承ください。



お知らせ1

なんてんcafeに新店長が やってきました!!

なんてんcafeの新しい店長、皆本龍平(みなもとりょうへい)です。日本酒専門居酒屋で働いた経験から、美味しい日本酒と日本酒にあうおつまみをご紹介したいと考えています。いままでのなんてんcafeの親しみやすさはそのまま活かし、ランチ・カフェ・夜、いつ来ても落ち着くお店づくりを目指します。皆様よろしくお願ひします。



お知らせ2

なんてんcafe おやつの販売 始めました!!



12月から手作りおやつの販売を始めました。「おつきいクッキーって、嬉しいですよね!」というスタッフの発案で生まれたクッキー、通称「オッキー」も色々な味で展開ていきます。 カフェタイムのちょっとした小腹満たしに、友達へのさりげない手土産に。 大人も子どもも安心して召し上がっていただける、素朴なおやつをご用意してきます。



なんてん cafe

なんてんcafeは鰐組の運営するカフェです。「食卓から暮らしを考える」を方針に、おいしいご飯とくつろぎの空間を提供しています。住宅のセールス等は一切ございませんので、ぜひ私たちの仕事と雰囲気を偵察にお越し下さい。



鰐日和 編集後記

今回の号は少し特別なバージョンで、ダブル表紙となりました。2人は3月で“鰐組社員”ではなくなりますが、これで別れというわけではありません。鰐組も鰐組の人々の人生も少しずつ変化していきます。固執するのではなく、変化をどう受け止めいくか。そういうことが大切な気がします。

人ノターネットで
鰐の小窓
を検索!

鰐組OFFICIAL WEB MAGAZINE
「鰐の小窓」を開いています!
鰐組のスタッフがブログ形式で
日々更新中。家づくりの裏側やイ
ベント情報など盛り沢山です!
ぜひお立ち寄りください。

Facebookページもやっています。
こちらは [鰐 facebook](#)
で検索ください!



お問合せ

TEL : 03-5986-1081 FAX : 03-5986-1082

メール : office@yoshikawano-namazu.com

住所 : 〒171-0043 東京都豊島区要町1-10-7

アクセス : 有楽町線・副都心線「要町」駅2番出口
(エレベーター) 徒歩1分